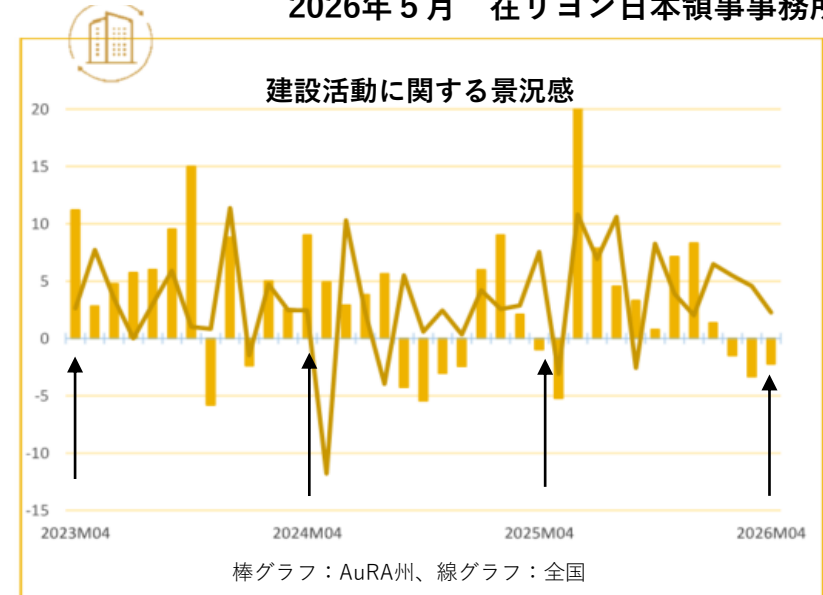
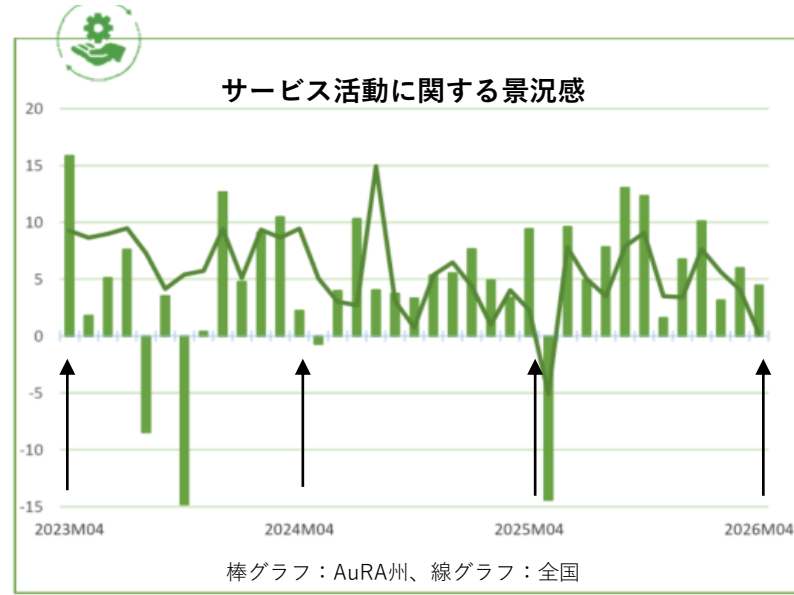
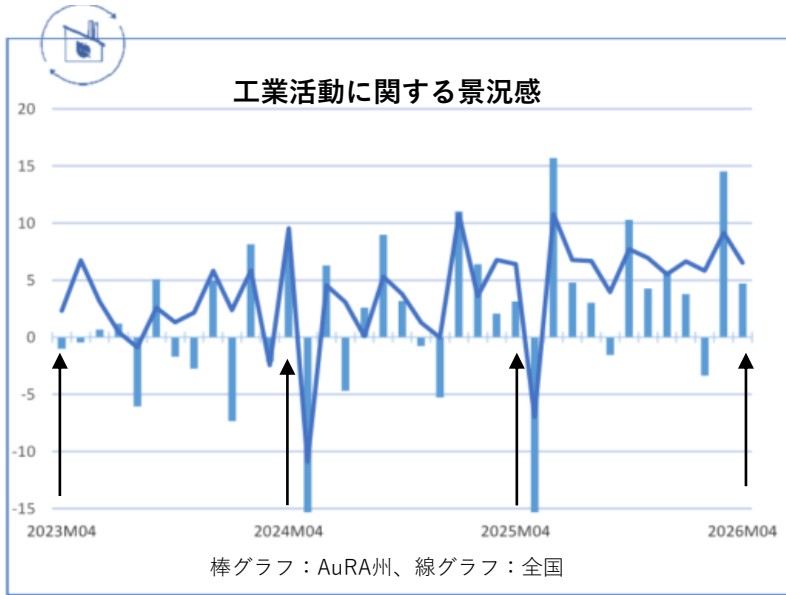


オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年4月）

2026年5月 在リヨン日本領事事務所



ポイント

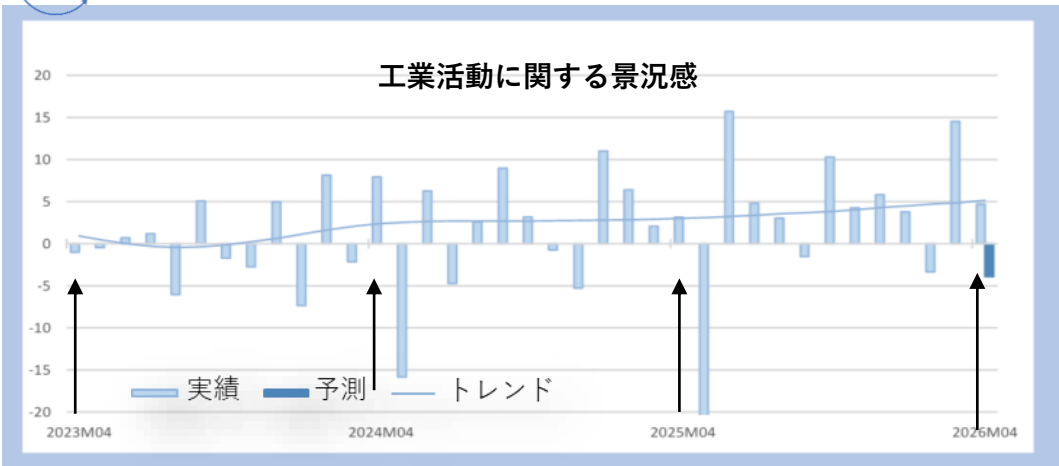
- 3月のAuRA地域圏における景況感は、工業部門及びサービス部門においては好調を維持した一方、建設部門では引き続き後退した。
- **工業部門**：AuRA地域圏の4月の景況感は、全国平均よりも緩やかなペースながら、引き続き増加した。雇用は全体として横ばい。原材料価格の上昇ペースは加速したが、販売価格への転嫁は部分的なものに留まった。すでに不十分とみられていた受注残は、わずかに減少した。企業経営者は5月の経済活動は鈍化するとみている。
- **サービス部門**：AuRA地域圏の景況感は全般的にプラスを維持した一方、全国平均では横ばいとなった。客足の減少により売上が減少した宿泊・飲食業を除き、ほとんどのセクターでこの傾向がみられた。運輸セクターでは燃料価格の上昇を転嫁するため、2ヶ月連続で大幅な運賃改定が行われた。短期的な見通しは悪化に向かっている。
- **建設部門**：AuRA地域圏の景況感は3カ月連続で悪化傾向にあるが、全国平均ではプラスを維持した。内装工事の受注は減少した一方、基礎工事の受注は前月からの減少を受けて低水準にとどまったものの、大きな変化はみられなかった。内装工事では、資材価格の上昇を部分的に転嫁するため、価格引き上げが行われた。業界関係者は、今後数週間は受注のさらなる縮小を予想している。
- 工業部門全体では資金繰りの状況は概ね安定しているとみられ、サービス部門では改善傾向にある。ただし、輸送用機器製造及びプラスチック製品製造、宿泊・飲食セクターでは悪化が指摘されている。

- フランス銀行がAuRA地域圏の工業、サービス業、建設・公共事業の各セクター1,150の企業と事業所を対象に、景況感について調査を実施（2026年4月28日～5月6日）。
- 景況感（le solde d'opinion）とは、企業経営者による肯定的意見と否定的意見の合計を、企業の従業員数で加重平均し、各部門の付加価値で調整したもので、企業経営者による7段階評価の回答を集計した指数であり、その値は-200から+200の範囲となる。季節調整済み及び稼働日調整済みデータを使用。（出所：Banque de France, [Tendances régionales : Auvergne-Rhône-Alpes](#)）



オーヴェルニュ・ローヌ・アルプ地域圏における景況感調査（2026年4月）

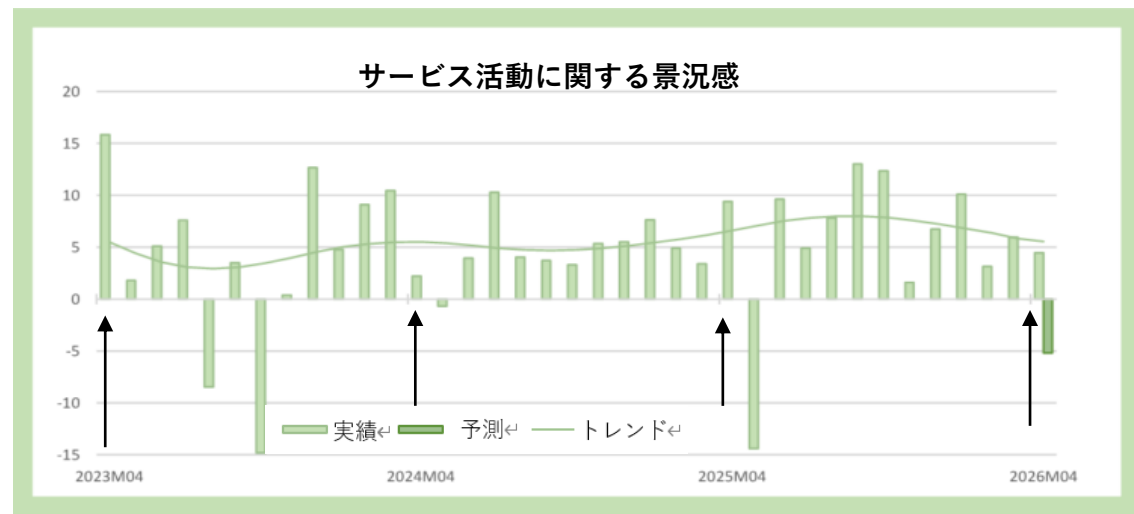
：実績、翌月の予測、トレンド



4月の工業部門の景況感は、前月よりも緩やかなペースながら、引き続き改善した。この傾向は、景況感が悪化した化学、製薬、木材・紙・板紙の各セクターを除き、ほとんどのセクターでみられた。完成品の在庫は減少したものの、依然として予想を上回っているとみられている。雇用情勢は安定。原材料価格の上昇ペースは加速したが、販売価格への転嫁は部分的なものに留まった。受注残はわずかに減少した。企業経営者の予測では、5月には活動が鈍化すると見通し。



サービス部門では、4月の景況感は引き続き堅調に推移したが、セクター毎にばらつきがみられた。陸上輸送、人材派遣及び法務・会計セクターは前月と同程度のプラスを維持し、エンジニアリング・セクターでは大幅に改善した。一方、宿泊・飲食セクターでは客足が減少。雇用は横ばい。運輸セクターでは、燃料価格の上昇を転嫁するため、2カ月連続で大幅な料金改定が実施された。専門家は慎重な姿勢を示しており、短期的には活動の減速を予測している。



4月の建設部門の景況感は引き続き悪化。内装工事の受注が減少した一方、基礎工事では前月までの活動縮小を受けて低水準にとどまり、大きな変化はみられなかった。資材価格の高騰により、企業収益が圧迫されている。内装工事ではこの変化を一部反映させるため見積価格の引き上げが行われたが、基礎工事では依然として下落傾向が続いている。短期的には、業界関係者は慎重な姿勢を示しており、内装工事では活動のさらなる縮小、基礎工事では現状維持を見込んでおり、見積価格の引き上げが検討されている。